

ばんけい

教育ほつとにゆーず  
かわら版こ みち  
教育の小径

No.49

11月号  
2012 November

## 今日のことば

## 朝令暮改

朝に出された命令や法律が、夕方には変えられてしまうことです。一旦決定した方針や考えなどはたびたび変更してはならないことを言います。



国士舘大学教授  
北 俊夫先生

## なぜ問題解決的な学習なのか

- 問題解決的な学習によって、教師による知識伝達の授業と比べて、子どもたちにより主体的に学習する態度を養うことができます。
- 問題解決的な学習を繰り返し体験することによってはぐまれる問題解決能力は、「生きる力」としての重要な役割をもっています。

## 今月の記念日

## 文化の日(11月3日)

「自由と平和を愛し、文化をすすめる」ことを趣旨に定められた国民の祝日。この日は日本国憲法が公布された日です。1947年までは、明治節と言われ、明治天皇の誕生日による休日でした。

## 主体的に学ぶ態度を養う

学習指導要領の総則には、従来から「問題解決的な学習を重視する」ことが示されてきました。問題解決的な学習に対して、社会科、理科、総合的な学習の時間などの授業課題として連想するかもしれませんが、総則に示されていることは、すべての教科等の指導に当たって求められている共通的な授業課題であるということです。

ここでは、問題解決的な学習をどのように展開するかという方法論ではなく、そもそもどうして問題解決的な学習が求められているのか。こうした学習が目指していることは何かという目的について考えてみます。

授業のスタイルは大きく分けて、次の二つのタイプがあります。ひとつは教師主体の授業で、教師が子どもたちに知識を伝達して身につけさせる授業です。それに対していまひとつは、子どもたちが自ら問題意識をもって自ら知識を習得・獲得していく学習です。それぞれによさがありますが、後者の授業スタイルを問題解決的な学習と言っています。

したがって、子どもたちが知識を獲得する学習では、子どもの主体性が一層重視されますから、こうした学習を

とおして自ら学ぶ主体的な学習態度が養われます。

学校教育法第30条によると、「主体的に学習に取り組む態度」は、子どもたちに身につける学力のひとつの要素であるとされています。問題解決的な学習は子どもたちの学力向上と直結する授業スタイルだと言えます。

## 問題解決能力を育てること

問題解決的な学習は、教師の指導のもとに、自ら問題や疑問をもって自ら解決していく学習ですから、こうした学習を繰り返し体験することをとおして、問題解決能力を育てることができます。問題解決能力とは、具体的に言えば、問題発見力、学習計画の作成力、自立解決力、自己評価力などです。

こうした具体的な能力は、教科等の学習場面で求められ、発揮されるだけではありません。日常の生活や社会において問題場面に遭遇したとき、それらを主体的に解決するときに必要な能力です。

また遭遇した問題だけでなく、自ら問題を設定して解決することもあります。その象徴的な場面が生涯学習です。問題解決能力とは「生涯学習できる力」と言い換えることもできます。私たちの人生は、毎日が問題解決の連

続ですから、問題解決能力は「生きる力」としての性格や役割をもっていると言えます。

学校教育法には、習得した知識や技能を「活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」をはぐくむとあります。思考力、判断力、表現力などの能力は問題解決能力の中核です。これらの能力をはぐくむことも目指しています。

問題解決的な学習では、こうした重要な役割をもつ問題解決能力を育てることを目指しているのです。

さらには、各教科等において問題解決的な学習を展開するねらいは、主体的な学習態度を養い、問題解決能力を育むことだけではありません。言うまでもなく、それぞれの教科等の目標や内容をより効果的に学習させるためでもあります。このことを忘れてしまうと、その教科等の役割が十分果たせなくなるおそれがあります。

問題解決的な学習を展開するとき、何を問題にするのか。それをどのように解決させるのか。学習の対象や内容を明確にしておくことが大切です。



## 箸や鉛筆を正しく持てない子ども

**Q.** 給食を食べている様子を観察していると、箸を正しく持っていない子どもが目立ちます。文字を書かせるとき、鉛筆の持ち方が気になります。箸や鉛筆を正しく持てない子どもが年々増えているように思われます。このような子どもたちに正しい持ち方を指導する必要があるのでしょうか。また指導するとき、どのような方法があるのでしょうか。

**A.** 子どもたちの箸や鉛筆の持ち方が気になるのは、先生自身が正しく持っている場合です。先生が正しく持っていない場合には、それほど気になりません。なお、ここでの持ち方とは、右利き・左利きのことではありません。左利きの場合、書写のハネや押さえが困難になることはありますが、それ以外に問題はありません。

箸を正しく持つと、下のほうの箸が固定され、上のほうの箸を自由に動かすことができます。小さな豆や米粒もしっかりはさみ、つかむことができます。また鉛筆を正しく持つと、ハネや押さえがしっかりし、力強い文字を書くことができます。

就学前に既に家庭などでは、箸や鉛筆を持たせていますから、持ち方の指導は基本的には家庭での問題でしょう。その意味で、当該の子どもの保護者とも相談して、協力して指導に当たることが大切です。鉛筆などの持ち方をよりよくしたいという意思が子ども自身にあることが大切です。無理強ひすることは避けなければなりません。

箸や鉛筆の持ち方を矯正するための器具も開発されていますので、利用してみるのもよいでしょう。

## 教育の動向

### 平成25年度全国学力調査

平成24年度の「全国学力・学習状況調査」は4月17日(火)に実施され、その結果が8月8日に公表されました。本年度は、前年度までの悉皆調査ではなく、抽出率約30%の抽出調査と希望調査による方法で実施されました。そのため、これまでの調査結果と比べられないなど、特に市区町村レベルでの経年変化が正確にとらえにくいという課題がありました。

過日、文部科学省から平成25年度の実施方針が示されました。それによると、平成23年度までと同様

に、小学校6年と中学校3年の全児童生徒を対象に、全ての市区町村・学校等で一斉に実施する予定だとしています。実施日は平成25年4月24日(水)です。

調査内容は、学力調査と学習状況調査に加えて、経済的な面を含めた家庭の状況と学力の状況の把握や、少人数学級の国の教育施策の検証・改善に資する調査が新たに実施されます。これまでよりもよきめ細かい調査が設計されています。

これにより、子どもの学力や学習の状況を把握するだけでなく、教育施策の成果と課題を検証するとともに、これからの子どもたちの教育指導の改善をきめ細かく行うとしています。



## 北先生の授業力向上術

### 問題解決的な学習の基本形

ここでは、本紙1面に記述した「問題解決的な学習」について、その進め方や実践上の課題など年間をとおして考えていきます。学習指導要領の総則には「各教科等の指導に当たっては、(中略)問題解決的な学習を重視する」と示されています。「問題解決的な学習」は全ての教科等における授業課題です。

今月は「問題解決的な学習」の基本形についてです。

問題解決的な学習に定まった形式はありません。しかし、学習の展開過程を考えると、少なくとも次の三つの場面(段階)から構成されます。

一つは、解決していくためのテーマである問題や疑問をもつことです。「問題をつくる」とか「問題設定」

などと言われています。「問題」が設定されることは問題解決的な学習が展開されるために前提となるものです。

二つは、設定された問題を追究することです。追究するとは、「調べる」「確かめる」ことです。調査、見学、実験、実習などの学習活動によって、問題を解決する活動が展開されます。

三つは、解決した結果をまとめることです。ここでは予め設定された問題について、調べたことや考えたことをまとめることになります。

以上のことをまとめて表すと、「問題をつくる」⇒「しらべる」⇒「まとめる」となります。問題解決的な学習の基本的な学習過程です。

次号から、各過程(場面)について具体的に検討していきます。

## INFORMATION

全面改訂

新学習指導要領  
完全対応

ワイド版

充実の付属  
CD-ROM

生きる喜びをはぐくむ

ばんけいの1~6年生の道徳

◎著者 真田昭・長谷徹  
◎定価 児童書 560円(本体価格)  
教育用指導書 2,600円(+税)  
◎発行 株式会社文溪堂



## 編集後記

かつてある県の問題解決学習(調べ学習)用の小冊子を作成しました。いろいろ取材し、本小冊子を編集していく過程で思ったことは、社会の中の多くの仕事が問題を解決するプロセスの中にあるということ。これこそ「生きる力」といえるのではないのでしょうか。(H記)

企画・編集: ぶんけい教育研究所  
発行: 株式会社文溪堂  
発行日: 2012年11月1日